

会議報告書（議事概要）	
会議の名称	「健康都市おおぶ」推進会議（令和6年度 第3回）
日 時	令和7年2月4日（火）13時30分～14時40分
場 所	大府市役所5階 全員協議会室
出席者 （敬称略）	荒井 秀典（国立長寿医療研究センター） 伊藤 浩明（あいち小児保健医療総合センター） 竹中 徳哉（大府市医師団） 大野 ふみ（大府市歯科医師会） 竹内 涼子（公募委員） 今井 勇治（愛知県知多保健所） 平川 仁尚（あいち健康の森健康科学総合センター） 岩井 幸子（大府市スポーツ推進委員会） 斉藤 雅茂（日本福祉大学） 藤田 静子（至学館大学） 事務局（健康未来政策課・健康増進課）8名
欠席者 （敬称略）	榊原 明美（大府市薬剤師会） 肥後 恵美子（人間環境大学） 林 史子（大府市小中学校）
内 容	
事務局： お忙しいところお集まりいただきお礼申し上げます。本日は、半数以上の委員が出席しているため、「健康都市おおぶ」推進会議条例第6条第2項の規定に基づき、令和6年度第3回「健康都市おおぶ」推進会議を開催する。始めに、次第の1、市長の岡村秀人及び荒井会長から挨拶をいただく。 1 あいさつ 市長： 本日はご多忙のところ、「健康都市おおぶ」推進会議にご出席いただき、お礼申し上げます。会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。日頃は、本市の健康都市施策の推進に多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。「健康都市おおぶ」を推進する中で、認知症予防や認知症にやさしい地域づくりは重要な施策の1つ。昨年はその一環として、全国初の「認知症ヘルプマーク」の制作や、本市が舞台の認知症をテーマとしたテレビドラマ「忘れっぽいハムレット」の放映を通じて、「認知症不安ゼロのまち」を全国に発信した。また、本年9月に、大府市は市制55周年を迎える。この節目にあたり、テーマを「健康と音楽」、キャッチコピーを「Obu Crescendo！（オオブ・クレッシェンド！）～健康と音楽が調和するまち～」とした。そして、今年度第1回の会議でもご報告したとおり、7月には健康都市連合日本支部総会・大会を本市で開催する予定。周年事業やこの大会を契機に、健康都市としての取組をさらに推進し、「日本一元気な健康都市おおぶ」の実	

現に向けて全力で取り組む。

本日の議題では、令和2年3月に策定した「『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進プラン」の中間見直し案を中心にご審議いただく。第1回、第2回の会議では、委員の皆さまから多くのご意見を頂戴したと伺っている。貴重な意見を寄せていただき、感謝申し上げます。これらを踏まえた最終案を本日提示するので、引き続きご意見やご助言を頂戴するようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

会 長： 本日も円滑な議事進行にご協力いただきたい。市長から話があったように、大府市は「日本一元気な健康都市」を目指しており、この会議においても様々な健康課題について、議論を進めていく考えである。本日は、特に健康増進計画や食育推進計画、自死対策計画について議論するが、多くの課題に対して着実な成果が出ていると認識している。また、大府市は、日本で初めて認知症に関する条例を制定した自治体として広く知られているが、認知症に限らず、市民全体の健康を支える取組、日本一を目指す取組に少しでも貢献ができればと考えているので、引き続き皆様のご協力をお願いしたい。以上、簡単ではあるが挨拶とさせていただきます。

2 議題

(1)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プラン 見直し後の最終案について

事 務 局： 【資料1】 説明

会 長： 大府市における男女差について、例えば7ページに記載の健康寿命のグラフを見ると、女性は国の平均とほぼ同じだが、男性は国の平均より平均寿命も健康寿命も長くなっている。また、11ページ【図表1－8】「メタボリックシンドローム該当者及び予備群者割合の年次推移」のグラフにおいても、女性は全国平均とほぼ変わらないが、男性は愛知県、知多半島と比べて良い結果になっている。男性の結果が良いということは、大府市の企業が健康経営を実践していると推測するが、市の意見はどうか。

事 務 局： ご指摘のとおり、企業による健康経営の成果は大きいと認識している。また、女性のメタボが多いという課題についても、特に働く世代（20～60代）の女性へのアプローチは必要と感じている。

会 長： 小中学校における食育は男女ともに重要だと感じる。特に女性については、若年層において全国的にやせの傾向が強く、肥満者の割合が減少している一方で、男性の肥満者は増加している。このような傾向は大府市でもあるのか。また、中年期のメタボリックシンドロームの発症要因の一つとして、出生時の体重が少ないことが関係しているとされている。大府市における出生体重の平均値、及びそれが国の平均と比較してどのような状況にあるのか、把握しているか。

事 務 局： 出生体重の平均値は出したことがない。早速分析をしてみたい。

会 長： 大府市で生まれて、一生大府市で過ごすという方が全てではもちろんないが、一つの興味深い着眼点ではないかと思う。また、小中学生の体力テストの結果もその後の健康状態に大きな影響を及ぼす可能性があるのではないか。

事務局： スポーツテストの結果は指標でいくつかお示ししているが、体力の結果を示しているものではない（運動の好き嫌い、睡眠時間）。

事務局： 大府市ではこの計画とは別に、「大府市スポーツ推進計画 2030」を策定しており、その計画において、こどもの体力も進捗管理をしている。

会長： それぞれの取組に各担当課が書かれているが、担当課と事務局との情報共有はどのくらいしているのか。

事務局： 毎年度当初に、昨年度実績と今年度の取組予定を照会している。また、庁内会議やこの審議会が開催されるタイミングなどでも共有や相談は密に実施するようにしている。

会長： 担当課としっかり意見交換をし、データをもとにディスカッションをすることが重要。そのようなディスカッションの内容も含め、次回以降の会議でフィードバックいただきたい。

委員： 68 ページに記載のある「ゲートキーパー養成」について、こういった方が研修に参加されているのか。

事務局： 昨年度から来年度の3年間については、教育委員会の協力を得、小中学校の先生方に多く参加いただいている。以前は民生委員や児童委員、市職員を中心に実施してきたが、教員に参加いただけたことで受講者数が増加している。

会長： 教員がゲートキーパーの役割を担うことは非常に有意義である一方、学校現場の過重労働も大きな課題である。教員がこの役割を担うことで、業務負担がさらに増加する懸念はないか。

事務局： 当初、教育委員会に相談した際には、教員向けの研修が多く負担が大きいという声もあったが、教員自身もこどもたちのメンタルヘルスについては課題認識があるということで、その重要性を踏まえて研修に参加いただいている。

委員： 1 点目、28 ページ以降で「目指す姿」として「〇〇を行います」や「〇〇が増えています」と記載されている、表現として適切なのか。

2 点目、9 ページのレーダーチャートの説明文が8 ページに記載されているが、単に数値が多かった項目を並べるだけでなく、例えば肝疾患における男女差の特徴など、具体的な違いを記載するとより分かりやすくなるのでは。

3 点目、見直し前のデータとのトレンドの差を分析することで、市の取組の成果が表れているのか、それとも単なる誤差の範囲なのかを判断でき、より意味のある分析になると考える。

事務局： 1 点目について、計画における「目指す姿」は、計画最終年度の状態を示すものである。大府市の計画は、健康増進計画に限らず、市の各事業においてもすべて個別に目標とする状態を示す形で策定されている。そのため、対象をどのような状態にするかを文書化し、さらに数値化するための指標を設定するという構成になっている。

事務局： 2点目、3点目のご指摘について、見直し前と比べてどう変化したかを分析する文章を1、2文追加させていただく。

会長： 肝疾患は範囲が広いので、どの病気や疾病が含まれているかによって分析結果が異なる可能性がある。女性に多い肝疾患としては、脂肪肝が代表的な病態と考えられる。肝がんについては、ウイルス性肝がんが減少しているため、今後はその数字も減少すると予想されるが、脂肪肝に関連する肝がん（NASH など）は増加すると考えられており、これを分けて考える必要がある。単にデータを示すだけでなく、より実効性のある対策を導き出すため、具体的な疾患の種類に応じた分析が求められるという指摘だと理解している。

委員： 1点目、14ページの「健康づくりの取組」「主観的健康観」において、本文は令和6年度となっている、図表グラフは令和4年度となっている。この図表は今後更新される予定なのか。

2点目、41ページの「生活習慣改善と重症化予防」において、図表2-21の「特定保健指導の実施率」を見ると、平成29年度から30年度にかけて大きく上昇している。これの要因となる取組について教えていただきたい。

3点目、46ページの「禁煙、受動喫煙防止」において、図表2-33の「ここ1か月間に受動喫煙にあった人の割合」が、20代で55%とかなり高くなっている。以前のプラン冊子には、受動喫煙にあった場所に関する調査結果も掲載されていた。原因に応じた対策がとれるようなアンケート内容にしていきたい。

最後に4点目、見直し前のプラン冊子には、参考資料として、最後のページに評価指標の一覧が掲載されていた。今回の見直し案にもその一覧を載せることで、より分かりやすい資料になるので追加をお願いしたい。

事務局： まず、1点目について、令和6年度の市民意識調査の結果は速報値しか出ていなかったため、年代別・性別のグラフとの記載年度に相違がある。2月上旬に詳細のデータが届くため、グラフも令和6年度の結果となるよう、差し替える予定。

3点目、「受動喫煙のあった場所」については、現在の市民意識調査項目には含まれていない。受動喫煙が発生する場所は、禁煙店舗の増加等に伴い減少している。市民意識調査の回答数を増加させるために、質問項目を絞り込む必要があり、結果的に省略されてしまった。今後は「ここ1か月間に受動喫煙にあった人の割合」の指標で推移を追っていく。

4点目、指標一覧については、新しい内容に修正して掲載する予定。

事務局： 2点目について、従来の保健指導は対象者に電話をかけ、教室などに招待し実施していたが、実施率がなかなか伸びなかった。そこで、現在は集団検診と個別健診を行っており、集団検診の会場には保健指導の担当者が待機している。当日の腹囲が大きい方や血圧が高い方にはその場でお声掛けし、保健指導を実施する方法に変更した。会場数を徐々に増加させることで、実施率を向上させている。個別検診でも、同様の条件で医師に指導を行っていただいている。

委員： 先ほどの斉藤委員の指摘の中で、28 ページに「適切な体重管理を行います」とあるが、他の箇所は「行われています」や「できています」という表現になっており、ここだけ揃っていないので整えた方がよい。

委員： 企業で健康経営を担当している。43 ページの「受診勧奨後の医療受診率」に関して、企業の場合、経営者には安全管理義務、労働者には自己保全義務があるが、国民健康保険の方々に受診を促すためにはどのような取り組みが効果的であると感じているのか、具体的な手応えについて伺いたい。受診まで持っていくのは非常に難しいと思われるが、どのような方法を取り、どのような成果が得られたのかをお教えいただきたい。

事務局： 国民健康保険の保険者は市になるが、被保険者に直接アプローチするのは難しい。勧奨はできても、強制的に受診させることはできない。効率的に進めるために、データを分析し、ハイリスクの方々へアプローチしているという現状。

事務局： 異常所見がある方に対する受診勧奨としては、電話をかけて、受診を促す形で進めている。

委員： 本当に難しい問題だと思う。企業であればある程度強制力を持って進められるが、一般の方々に対しては、特定保健指導の実施すら大変なことだと感じる。

会長： 「受診勧奨後の医療受診率」として 50%以上を目標値としているが、かなり高いハードルだと感じる。該当者には受診の必要性をしっかりと訴える必要がある。次回、可能であれば、どのような資料を使って受診勧奨しているのか提示いただきたい。事務局にて検討をお願いする。

（２）健康増進・交流拠点施設（仮）について

事務局： 【資料２】 説明

会長： 大府市における様々な健康課題に応える重要な施設の一つとして位置づけられ、来年の秋には完成すると伺っている。多世代交流の場ということで、我々長寿医療研究センターとしても、大府市民の健康増進に役立つアイデアを出していきたい。

（３）健康都市施策の実施状況について

事務局： 健康経営の推進等について【資料３－１】 説明

事務局： アイケア啓発プロジェクトについて【資料３－２】及び「認知症の日」のイベントについて【資料３－３】 説明

委員： アイフレイルの取組が始まった背景は何か。

事務局： こどもの近視予防プロジェクトを実施している中で、保護者の方から「自分の目についても気になる」といった意見をいただくことが多かった。大人の目に対しても何か啓発ができないか、プロジェクトメンバーとの議論を重ね、「大人のアイフレイル啓発プロジェクト」の実施に至った。

会長： そもそもアイフレイルは日本臨床眼科学会の先生方が始められたという背景があ

り、名古屋大学の寺崎浩子教授が主導して、眼科領域のフレイルということでアイフレイルという言葉を出された。当初、私のところにも相談に来られたので、フレイルという言葉を使うのであれば、「病気ではないこと」「可逆的なものであること」というコンセプトをご理解いただいた上でアイフレイルを啓発してほしいとお願いした経緯がある。テレビのCM等において、最近目にすることが多い言葉になったが、フレイルのコンセプトは理解いただいていると思っている。

会 長： 認知症の日は、来年度も9月21日に実施するのか。

事 務 局： 予算はまだ確定していないが、現段階の案では、大府市を舞台にした、認知症がテーマのドラマ「忘れっぽいハムレット」の上映会を市役所にて実施する予定。

会 長： 認知症の日とは別に、フレイルの日もあり、2月1日である。長寿医療研究センターとしてもキャンペーンを実施するので、もし市の予算が許せば来年度は何らかの形で一緒にイベントを実施したい。

会 長： 本日の議題はすべて終了した。市民の健康意識をどのように向上させていくかは大きな課題である。大府市は高齢化の進行が比較的緩やかであり、企業が多く、働く世代や共働き世帯も多い。企業に勤めている方々に対しては、企業が一定の役割を果たしているが、市としてはそれ以外の方々への支援を強化することが極めて重要である。今後もこの審議会において皆様とともに議論を深めていきたい。それでは進行を事務局にお返りする。

3 その他

事 務 局： 本日ご欠席の肥後委員について、今回の会議をもって退任されることとなった。この場をお借りしてご報告する。

事 務 局： 本日は「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プランの見直し後最終案をはじめ、その他の施策についても多くのご意見をいただき、御礼申し上げます。この計画は大府市における健康づくりの根幹となるものであり、今後、より効果的な取組を具体化できるよう、事務局において引き続き努めていく。

また、健康増進・交流拠点施設については、現在具体的な図面の整備を進めている。施設のあり方については、荒井会長はじめ多くの関係者の意見を伺いながら、機能的な施設となるよう完成を目指していく。進捗状況については、この審議会において随時ご報告させていただく。本日は活発な議論をいただき改めて感謝申し上げます。

事 務 局： 来年度の会議は全2回、6月と2月ごろの開催を予定している。開催日は後日事務局から調整させていただく。以上で、令和6年度第3回「健康都市おおぶ」推進会議を終了する。

以上